

令和3年度

学校関係者評価報告書

学校法人 平野学園

ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校

令和3年度 学校関係者評価委員会

1. 日 時：令和4年3月14日（月）16時～

2. 会 場：新校舎トラス1F

3. 委員名簿：

名 前	所 属	任 期	種別
青木 伸晃	株式会社トーカイ・アピ ア 取締役専務	令和3年3月～令和5年3月（2年）	卒業生
石原 傳也	株式会社オブリ 代表取締 役	令和3年3月～令和5年3月（2年）	元保護者会 長
大角 勇雄	大垣タクシー株式会社 代 表取締役	令和3年3月～令和5年3月（2年）	学校評議員

学校側参加者：校長 平野 宏司、副校長 岡本 春信、ファッション科主任 久保田百合子
情報デザイン科主任 西村 佳子

4 学校が設定する評価項目説明（自己評価結果等）

(1) 教育理念・目標・育成人材等

①課題等

○今年度も、深刻なコロナ禍にみまわれ、入学式は行えたものの、数回休校としてオンラインで授業をせざるを得なかった。しかし様々な国から受け入れた留学生が「日本であるいは母国で活躍できるようにしよう」という使命感を持って、職員一同学生指導を行ってきた。コロナ禍の中で社会情勢の変化が激しく、また学生の資質や希望も多様なため、一様な指導が困難で、特に本格的な受け入れ2年目で学習意欲のやや弱い学生が増え、学生指導の手法にさらなる工夫が必要である。

②今後の改善方策

○「就職に向けた取り組み」が本人の希望とマッチングしていない。当校の理念が具現化するのが本来は就職であるが、実際の就職は必ずしも学生の希望通りにはならない。来年度以降の特定技能の拡充が期待されるので、それに向けて教科の内容を精選していく。

○企業や業界との連携をさらに強め、どのような人材が必要か研究し、教育課程に反映していく。留学生の就職に対しても調査していく。

○留学生それぞれの国の文化を尊重しつつ、当学園の一員である誇りをもたせ、日本に溶け込むことができる学生指導を行う。

(2) 学校運営

①課題等

○職員の人数がふえてきたので、連絡・相談などのコミュニケーションがむづかしくなってきた。学生の遅刻欠席等連絡事項が増えているので、ホワイトボードに書いたり、ラインで情報共有を行っている。非常勤職員との連携に課題がある。今後も授業ノートなど丁寧に書いていただいているのでさらに連携していきたい。

○HPに関して、わかりやすいHPであるが、情報を更新していく頻度と、携帯端末からすぐに見てもらうことに難がある。一方、FBやインスタグラムを毎日のように更新しているので、フォロワーが増えている。

②今後の改善方策

○情報システムとして、据え置きプロジェクターを設置したので、ビジュアルな授業を行っている。(縫物の手元を映す、最新のファッションを見せる等) さらに活用していく。

○非常勤講師に対しては学生の動向等をこまめに報告し、更に連携を密に図る。ファッション科にはティームティーチングを導入し、困難を感じている学生の支援を行っている。情報デザイン科は卒業生がアルバイトで手助けをしてくれ、学生の支援から消毒まで行ってきた。

○来年度、留学生の中で特に優秀な学生をアシスタントとして雇用するので、授業の助手だけでなく、広報の面でも大いに期待している。

(3)教育活動

①課題等

○科目の精選を行い、一部単位を減らして、学生のニーズにあうように教育課程を編成する。

○「職業実践専門課程」の認定を受けたので、認定校にふさわしい授業を行い、一般にも認められるように広報していきたい。

②今後の改善方策

○学生へのモチベーションとして、「発表」と「検定」を柱としたい。ファッション科はファッションショーがあるが、情報デザイン科は学園祭と OFF だけであるので、授業内でも発表したり、HP に掲載するなどして学生の意欲を高めたい。また学生の技術を評価する独自の「検定」を設けて、技術水準を客観的に評価できるようにしたい。

(4) 教育成果

①課題等

○専修学校においては、「出口指導」は最も大切なものであり、毎日の授業や地道な生活指導の成果が、就職率の向上であり、資格取得である、という意識で指導をしている。コロナ禍の中、学生は就職活動をまじめに行った結果、日本人については3月1日現在、100%の就職率を達成した。しかし留学生については思うように就職はできていない。当校で新たに専攻科を設置したので、さらに学習をさせ、来年度の就職に結び付けていきたい。

○ファッション科は色彩検定・販売検定など多数の検定に合格、情報デザイン科はマイクロソフト検定や秘書検定を取得した。コンテストは多くが感染予防のために中止となってしまったのが残念であった。特に大垣ファッションフェスティバルが中止となり発表の場がなくなったが、代替措置としてファッションショーやコンテストの結果発表を別にビデオ収録し、YouTube で公開、また卒業式の時に披露して、2年間の集大成とした。

○留学生の退学については、主にコロナの影響により学費の支払いが滞って退学せざるを得ない学生が数名でた。

○具体的な支援については、国から10万円の緊急支援金を14名が獲得、また職業実践専門課程の学生として毎月48000円を得ている学生1名、民間の留学生用30000円を得ている学生が1名いる。食の支援として、国の支援と当校で折半して数回にわたって食料支援、またコロナにかかり外出もままならない学生にはカップラーメンなどを宅配した。

②今後の改善方策

○留学生の就職指導を本格化させ、ハローワーク(大垣、名古屋)の登録から始めて、面接指導や履歴書の書き方も行っている。しかし専門学校なので就職先や職種が限られている。(ファッション科では主にデザイナー、情報デザイン科ではITエンジニア)専門でしっかり教えることはもちろんであるが、「特定技能」という専門とは直接関係がないが、日本で就職したい学生のための職業の就職指導も並行して行う。日本人については、今年度のコロナの影響が残り、来年度も就職がきびしいことが予想される。しかし多くの資格をとり、履歴書に書いて社会にでていこう、という方針に変更はないので、積極的に挑戦させたい。今年度も特に「企業研究」の時間に

先輩などの成功体験を聞かせたり、セミナー講師を招聘して（オンライン）お話を聞かせたりして、チャレンジする気持ちを起こさせた。来年度もさらに進めていきたい。

(5) 学生支援

ファッション科においては清凌高校との合同ファッションショーを行っていたり、職員も共通で教えている。情報デザイン科ではオープンキャンパスで IT に興味のある学生に対してさまざまな情報を流している。しかしキャリア教育という限定的な意味では十分ではない。

①課題等

○感染対策を徹底させるため、マスク着用・手洗い指導、毎日の検温はもとより、学生に体温計貸与、持ち運びのできる消毒剤を持たせた。またラインでの連絡を確実にし、熱があつて感染が疑われる学生は登校停止とし、病院に行かせた。対策は行っていたものの、数回休校をしたため、教育内容の変更を余儀なくされた。コロナ禍の中、留学生は学費をアルバイトに負っている部分が大きく、特に学費の滞納が目立った。国からの給付金等の事務を確実にしたり、支払い計画の相談にのって、少しでも学生の不安をやわらげるようにしたが、一部の学生の退学はふせげなかった。

○経済的に苦しい学生に対して十分な支援ができていない。アルバイトは日本での社会経験を積む良い機会なので奨励しているが、学習に悪い影響がでるといけないので、管理を行っていく必要がある。

②今後の改善方策

○学生の学費負担が少しでも軽減されるように、今後も県に対して補助金の増額などをお願いしたい。

「学生サポート No1 を目指して」をスローガンとしているので、これからも面談などこまめにやっていきたい。

○同じ法人である清凌高校とは常に連携している。またファッション科は、県内の同系統の学科をもつ高校とはいつも協力しているので、今後も学校訪問を通して、「顔の見える」関係性を構築していく。

(6) 教育環境

①課題等

○新校舎はやや手狭であり、今年度は学生が増えたので密となる場面があった。旧校舎も活用して、工夫が必要である。

○避難訓練を、本校の教頭の協力で今年も行った。留学生も真剣に取り組んだ。ビル火災は大変恐ろしいので、火の始末には最大限の注意を払っていきたい。

②今後の改善方策

○学生にとってできるだけ学習環境を整え、当校で誇りをもって学べるようにしていきたい。また職員が増加するので職員室の整備も必要である。

(7) 学生募集と受入れ

①課題等

○留学生を受け入れる体制を整えて 2 年目、昨年度は順調に学生の確保はできた。当校在校生が口コミ（SNS）でたくさん志望者を呼んでくれた。ただし今年度はそもそも日本語学校の学生が少なく、また退学者もでるので（学費がはらえない、または進路変更）学生募集を職員全員で行う体制にする。

○高校にはあらゆる機会をとおして当校の良さを広報している。岐阜専修学校各種学校連合会でアピールビデオを作成したり、パンフレットの充実を図っている。

②今後の改善方策

○留学生はもちろんだが、日本人についてもさらに当校の教育活動の状況をしっかりと伝えていく。卒業生をスタッフとして雇用するので、たとえば広報活動に同行させるなどして、当校の魅力を直接伝えていきたい。

(8) 財務

①課題等

○新校舎を増設、施設・設備も増やした。長期的な視点に立って経営を行っていききたい。

②今後の改善方策

○留学生数が減った場合でも健全な財政であるように計画性をもって運営したい。

(9) 法令等の遵守

①課題等

○コロナ禍ではあったが、授業数を適正に確保し、学生の出席率も入国管理基準をしまわらないように十分に注意してきた。そのため、「優良校」と認定され、ビザ更新が1年→2年に延長されて、学生への負担が減った。

②今後の改善方策

○個人情報の管理について、紙媒体のみならず、データの流出に気をつけたい。さまざまな機会を通して職員に周知徹底している。

(10) 社会貢献

①課題等

○本法人は「中日文化センター」として長い間地域の文化の中心として貢献をしてきたと自負している。今後も変わらず地域と共に歩んでいきたい。

○コロナ禍でほとんど行事ができなかった。東京ゼミ旅行→中止、社会見学→岐阜公園、学園祭→オープンデイとして専門課程独自、大垣ファッションフェスティバル→中止のため、スタイル画コンテスト（当校2年生が最優秀賞受賞）、大垣フォーラムホテルでのビデオ撮影、卒業式での披露、となった。来年度できる環境が整えば、学園祭やOFFは地域や他の学校からも喜んでいただけるように実施していきたい、

② 今後の改善方策

○留学生が地域の方から認められるためには、まずあいさつなど自分からしていくとか、時間を守るとか、ゴミ出しのルールを守るなど日本では当たり前のことを当たり前に行うという指導が必要である。学内での指導を通して、地域にも認められる人材を育てたい。

5 評価会議に基づく学校評価

評価基準				
適切 4		ほぼ適切 3	やや不適切 2	不適切 1
1	教育理念・目標 人材育成等	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		
2	学校運営	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。人事、給与に関する規定等は整備されているか。業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。教育活動等に関する情報公開が適切にされているか。情報システム化等による業務の効率化が図られているか。		

3	教育活動	<p>教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。</p> <p>キャリア教育・実践的な職業活動の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</p> <p>資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。</p> <p>関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。</p>	3
4	教育成果	<p>就職率の向上・資格取得の向上・退学率の低減が図られているか。</p> <p>卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。</p>	2
5	学生支援	<p>就職に関する支援体制・学生相談に関する体制・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。</p> <p>保護者と適切に連携しているか。</p> <p>卒業生への支援体制はあるか。</p> <p>高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。</p>	3
6	教育環境	<p>施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。</p> <p>防災に対する体制は整備されているか。</p>	3
7	学生募集と受入れ	<p>学生募集活動は、適正に行われているか。</p> <p>学納金は妥当なものとなっているか。</p>	3
8	財務	<p>中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。</p> <p>予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。</p> <p>財政について会計監査が適正に行われているか。</p>	4
9	法令等の遵守	<p>法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。</p> <p>個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。</p> <p>自己評価の実施と問題点の改善し自己評価結果を公開しているか。</p>	4
10	社会貢献	<p>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</p> <p>学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。</p> <p>地域に対する公開講座・教育訓練積極的に実施しているか。</p>	2

6. 評価委員からの意見・提言

○コロナ禍の中でよく運営されている。情報デザイン科のカリキュラムは今の時代に合ったものとなっているようである。カナダ人の先生のよい影響があるようだ。オープンデイのファッションショーは国際色がでてよかった。学校のディスプレイがとても良いのは、ボックスディスプレイで練習をしているからだということがわかった。

○アパレル業界でもオンライン化が進んでいる。情報デザイン科とファッション科でコラボをして、ファッションで製作→情報デザイン科で販売など進めてみてはどうか。また企業と連携して、発信していくとおもしろい効果があると思う。留学生の就職が困難なようだが、自分たちもできることがあれば、協力したい。

○YouTube の画像がよくできている。VR の利用が増えてきたので、利用しては面白いものになる。企業によってはIT化に追いついていけない企業もあるので、そのような企業との懸け橋になれるとよい。名古屋からくる学生が多いようだが、大垣にコミュニティがあると留学生が大垣に定着するのではないかな。